

(第3種郵便物認可)

埼玉経済

感動をユーザーに

第4章 技 熱血下町セーブルスマン

まさか!? 1961(昭和)はあるかね?と聞かれた。36年、トヨタの人間である。まさか一日仕事になるとは思私は、なぜか、ライバル社がわなかつたので、即、承知し建設を進めていた中核の工場に潜りこみ、ついでに「連絡するから待ってくれ」来事だから、潜入でなく購入と聞かれ、次に「藤沢だけだ(ちんげう)になるのかも」しれない。

同業他社のセールスである私が、建設工事の現場にトヨタエースを運ぶことになったのだ。浅草橋に近いお客様の瓦屋さんだった。納車したその日、やむに「キミ、時間3〜4分の所を右へ曲がり、

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040
keizai@saitama-np.co.jp

いすゞ 藤沢工場潜入?

あと「カン」で走った。砂利道を30分以上走ると、見たところ5〜6万坪余りの広大な建設現場が目前に開けた。同年発表したディーゼル車べルを生産するために11月の竣工開所を目指して突貫工事していた。当時の正式名は藤沢製造所で、出入り口は「国境の検問所」のようにもものしい。警備員も4人もいた。さてどうする? 知恵と機転を利かせなければ、とても突破できない。東京トヨベットの者などといえは、産業スパイ扱いもされかねない。

「いいね、走ってみてくれ」と言う。場所柄から、いいのですかね」と臆しながら構内を走った。今思い出してもスリル満点のドライブだった。しかし、そこでドキドキ、ハラハラ劇は終らなかつた。名前を言いつて、現場の責任者にクルマを届けに来たことを

「56年SKB」で一年以上は使いつ放し。整備したこともない。念のためオイルの量を点検したが、横浜新道に入ったところからエンジンがおかし。最低速度40km/hで上り坂をサードで、平面と下りをトップで加速するとフックが

生死の境界線 人生賭ける

ジャリ道

メトラン(株)会長

トラン・ゴック・フック④

長男ジュン(当時35歳)の沖縄での結婚式(2008年10月)の直前、ベトナムの工場で作った機械の部品に問題が発生。フックは回収という苦渋の決断をする。製造の責任者はジュンだった。

こんな時期に式を挙げるとは取引先に言えなかつた。午後の披露宴が始まる前、フックの携帯に取引先から今日中に来いと連絡が入る。「ジュン、悪い」とだけ言い残し、フックは会場を抜け出す。空港に向かうタクシーの中でメロンが入った。「お父さん、ゴメン」

でも、後遺症のリスクにさらされる。酸素濃度と圧力が高くなると未完成の肺胞に影響を与え、網膜はく離や気管支の変形、脳性まひなどの危険が生じる。

ある時、スポーツクラブで偶然言葉を交わした若い小児科医とケンカになった。医師は言った。「僕は無理には助けない。後遺症が残るし、家族は負担を背負う」。フックの怒りがせきを切った。「あなた、神様じゃないでしょ?」どの赤ちゃんを助けて、どの赤ちゃんを死なせるって、あなたが決める事じゃないでしょ」

も葛藤がある。でも、障害が残るから命をどうのこうのって、それは違う。僕は迷いながらも、知恵を最大限絞ってやっばり目の前の命を助けた。神様、いいんだよ」

フックは信念の結晶である人工呼吸器を世界にもっと普及させたい。しかし、海外の市場には困難もある。特に米国進出には二の足を踏む。

息子の突然の死

今年2月、フックが妻の満子と米国の出張から戻り、自宅に着くや否や、電話が鳴った。ベトナム南部のビンズオン省にあるグループ会社の社長だった長男のジュンが、アパートで亡くなっていた。脳出血だった。ベトナムはテト(旧正月)で国全体が休暇のさ中。誰にも気付かれず、死後10日ほど経っていた。41歳だった。

「お父さん、ゴメン」。フックの頭に浮かんで消えている。一全て起きていることは幸も不幸も神様が用意してくれたものなんだよ」

今年7月、フックはハワイ、オアフ島の海辺にいた。家族旅行で来るはずだったハワイにジュンを連れてきた。水面に呼びかけながら散骨した。「きれいなところだね。どうか楽しんでくれ」



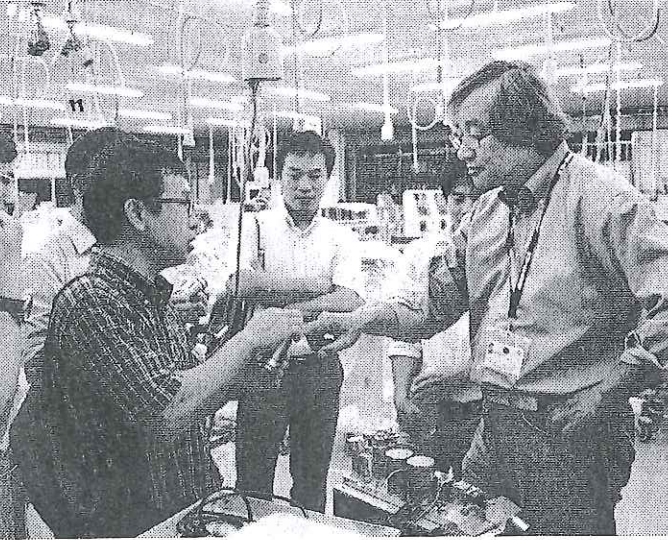
未熟児は万が一命が助かったの境界線の仕事。フックに



「情熱があれば何でも乗り越えられる。情熱って愛すること。そういう気持ちで生きてこられた」=9月8日、メトラン本社の工場

「僕はブルドーザー」

来日して47年。日本で多くを学び、深い絆を得た。「今



在日ベトナム人たちがメトランを訪問。工場を案内し、製品への質問に耳を傾けるフック(右)=9月12日、メトラン本社の工場

来週金曜日から日高屋の神田正会長が登場します。